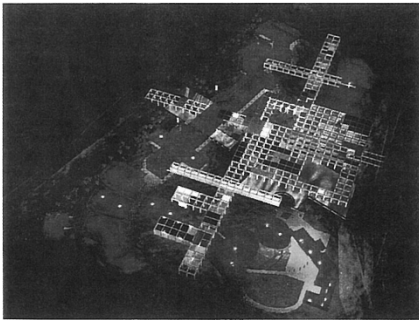


新潟大学工学部建設学科建築学コース
牧野 裕美



制作者のことは

設計概要 都市には新たな空間構成が求められている。地球環境保護は時代のテーマのようになっていながら一歩足りない。それは、根本的に自然と都市を分断する姿勢からは脱出できないままだからではないか。つまり、人間側に都合良く機能分化された空間を追求したことにより自然破壊、都市の過密化が進行してきたのではないかと考えたのだ。●メビウスの環は表裏一体であり、表と裏の関係すなわちここでは自然と人工が浑然一体となった空間を「メビウスな空間」と定義しライフラインを表面化させたランドスケープを形成する。また都市の人工的な機能のみを抽出した要素を「Virtual Metropolitan」と定義し、メビウスを構成するPartitionと共に空間内にプロットして行く。様々なPartitionが空間の形状・質を決定し、その支配される位置は常に化する。従って機能と空間の関係が一定ではないという新しい関係が生まれる。●メビウスな空間を敷地全体の環境保護に対する意志の上での座標軸として位置づけ、前述のコンセプトに基づき、集合住宅地区、地域コミュニティ、「道」を計画した。●全体として相互作用で、環境保護や人々のネットワークづくり、環境保護を介した福祉のあり方を求め、最終的に人間と自然の関係を再認識して行くことがねらいである。

発想の原点 小川未明の童話（彼は、今回敷地に選定した上越市出身の童話作家である。）と様々な地球環境保護に対する動き

作品総数 A1判×14枚、模型2点、MO 5枚（CGデータ）

制作日数 構想7カ月（もしくはそれ以上）、制作4カ月

制作回想 まず赤林先生、丁寧かつ厳しく御指導頂き大変ありがとうございました。また、学科の先生方、研究室の皆様、部活の存在と仲間達、家族…全ての出会いに感謝の心は尽きません。

先輩諸君へのアドバイス 一人で卒計を創りきると決める！そうすれば、自ずと早め早めに計画して動いて行けるはずだ。

推薦のことは

新潟大学工学部建設学科助教 赤林伸一

世界中で地球環境の保護や環境との共生が叫ばれているなか、環境共生住宅や自然エネルギーを有効利用した都市計画や集合住宅が多数提案されている。「メビウスな空間+ Virtual Metropolitan」は従来の環境共生とは趣を異にしている。人類は化石燃料という新しいエネルギー源を発見し、過去に蓄積されたエネルギーを使い初めた瞬間からはや自然と共生して生活を営んでいくことは困難な状況に陥っている。このことに気づかず環境を破壊しているにも関わらずいかにも環境を保護しているように装っているのがこれまでの大多数の提案である。一度向上した生活の質や贅沢はもう元へは戻れないのである。

牧野さんの卒業設計は人類が環境と共生することが極めて困難なことを認識した上で人工環境と自然環境を明確に分離し、その中間領域に「メビウスな空間」を配置し人工と自然のインターフェイスとすることで共生をはかっている。また、下水処理場から排出される処理水を熱源とした地域熱供給を採用し、更にパンプアップ手法も取り入れることにより環境の質を保ったままエネルギーの消費量を削減し、地球環境に対する負荷を低減させている。

牧野さんは建築環境工学の研究室に所属しこの卒業設計を行っている。ともすれば意匠設計に偏りがちな卒業設計に物理的な環境評価や建築設備設計の考え方を取り入れ実用的で地球環境にも配慮した計画を完成させた。このような設計が高い評価を受けることは卒業設計においても単に意匠設計にとどまらず室内外の環境計画も含めた総合的な地域計画を行う必要性を指摘していると考えられる。

今後更にこのような卒業設計は増えんと考えられ、意匠設計のみならず環境設計、設備設計も含めた設計計画が正当な評価を受けることを期待したい。

空間……「メビウスな空間」

メビウスな空間とは、自然と人工、都市と自然、人工と自然がインターフェースとして機能する空間を指している。従来の空間構成とは異なり、自然と人工が浑然一体となった空間を「メビウスな空間」と定義し、ライフラインを表面化させたランドスケープを形成する。また都市の人工的な機能のみを抽出した要素を「Virtual Metropolitan」と定義し、メビウスを構成するPartitionと共に空間内にプロットして行く。

概念……「Virtual Metropolitan」

Virtual Metropolitanとは、都市の人工的な機能のみを抽出した要素を指している。従来の空間構成とは異なり、自然と人工が浑然一体となった空間を「メビウスな空間」と定義し、ライフラインを表面化させたランドスケープを形成する。また都市の人工的な機能のみを抽出した要素を「Virtual Metropolitan」と定義し、メビウスを構成するPartitionと共に空間内にプロットして行く。

メビウスな空間とは、この敷地内の地球環境保護に対する動き、取り組みを象徴するものである。メビウスな空間のコンセプトに基づいて環境保護、自然との共生を実現するための空間構成が実現されている。この空間は、自然と人工の関係を再認識するための空間である。

下水処理場の持つポテンシャルエネルギーによる空間構築——自然と人工の共生と真に向き合うこと——

下水処理場の持つポテンシャルエネルギーによる空間構築は、自然と人工の共生を実現するための重要な要素である。この空間は、自然と人工の関係を再認識するための空間である。